

# 湧別町バイオマス産業都市構想



北海道湧別町

令和2年9月



# 目 次

1	地域の概要	1
1.1	対象地域の範囲	1
1.2	作成主体	2
1.3	社会的特色	2
1.3.1	歴史・沿革	2
1.3.2	人口	4
1.4	地理的特色	5
1.4.1	位置	5
1.4.2	地形	6
1.4.3	交通体系	6
1.4.4	気候	8
1.4.5	面積	10
1.5	経済的特色	11
1.5.1	産業別人口	11
1.5.2	事業所数	13
1.5.3	農業	14
1.5.4	水産業	19
1.5.5	林業	20
1.5.6	商業	21
1.5.7	工業(製造業)	23
1.6	再生可能エネルギーの取組	24
1.6.1	バイオガス発電	24
1.6.2	太陽光発電	25
2	地域のバイオマス利用の現状と課題	26
2.1	バイオマスの種類別賦存量と利用量	26
2.1.1	廃棄物系バイオマス	26
2.1.2	木質系バイオマス	26
2.2	バイオマス活用状況及び課題	28
3	目指すべき将来像と目標	30
3.1	背景と趣旨	30
3.1.1	湧別町総合計画	30
3.1.2	北オホーツク地域循環共生圏構想	30
3.1.3	災害への備え	32
3.2	目指すべき将来像	33
3.3	達成すべき目標	35
3.3.1	計画期間	35
3.3.2	バイオマス利用目標	35
4	事業化プロジェクト	37
4.1	基本方針	37

4.2	計画区域	38
4.2.1	集中型 BGP	38
4.2.2	個別型 BGP	40
4.3	集中型 BGP プロジェクト	41
4.4	個別型 BGP プロジェクト	47
4.5	電力会社との系統連系について	57
4.5.1	自営線を用いた電力地産地消の検討	57
4.5.2	北海道における募集プロセス及びノンファーム型接続について	58
4.5.3	北海道電力との協議	59
4.6	その他のバイオマス活用プロジェクト	59
4.6.1	既存事業の推進	59
4.7	再生可能エネルギーの導入状況	60
5	地域波及効果	61
5.1	経済波及効果	61
5.2	新規雇用創出効果	62
5.3	その他の波及効果	63
5.4	BGP 事業の効果と SDGs	64
6	実施体制	65
6.1	構想の推進体制	65
6.2	検討状況	66
7	フォローアップの方法	67
7.1	取組工程	67
7.2	進捗管理の指標例	68
7.3	効果の検証	69
7.3.1	取組効果の客観的検証	69
7.3.2	中間評価と事後評価	70
8	他の地域計画との有機的連携	72

# 1 地域の概要

## 1.1 対象地域の範囲

本構想の対象地域の範囲は、北海道湧別町とします。

本町は北海道の東北部に位置し、オホーツク海と北海道で最大の湖・サロマ湖に囲まれたチューリップのまちです。

一級河川・湧別川の下流から河口に位置するため、肥沃な恵ある大地では畑作が、山間や河口域では乳牛飼育による酪農が盛んで、牧歌的な景色が広がります。春には街中にチューリップが彩り、みどり豊かな多くの自然が人々を楽しませてくれます。

気候はオホーツク海型気象地帯としての特色をもち、冬の寒さは厳しく、例年1月下旬頃から流氷が接岸しますが、比較のおだやかな気候で日照時間に恵まれているのが特徴です。



図 1-1 湧別町の位置(上)、町の花 チューリップ(左)、流氷(右)

出典：湧別町

## 1.2 作成主体

本構想の作成主体は、北海道湧別町とします。

## 1.3 社会的特色

### 1.3.1 歴史・沿革

本町は平成 21(2009)年 10 月、合併新法下において、隣接する上湧別町と湧別町が合併し誕生した町です。「湧別」とは、アイヌ語で「鮫(ユペ)の住む川(ペツ)」の意味で、昔、湧別川河口から近海にかけて相当数の鮫が生息していたことに由来しています。

#### (1) 先史時代

本町が属するオホーツク地方では 2,000 を越える遺跡が確認されており、オホーツク海沿岸地域では縄文、続縄文、オホーツク文化、アイヌ文化まで各時代の遺跡が分布しています。本町には、縄文文化の「湧別市川遺跡」、縄文文化期～擦文文化期の「シブノツナイ 竪穴住居跡」等多くの遺跡が見られ、本町に人類が住みはじめたのは、およそ 1 万年前と推測されています。

また、黒曜石の原産地として知られる近隣の白滝村(現遠軽町)等内陸部では旧石器時代の遺跡が多く見られ、オホーツク沿岸の古代遺跡は樺太・シベリア等大陸諸文化との関係が強く認められます。

オホーツク地方は、旧石器時代から日本人の祖先が住みはじめた地域の一つで、太古の昔から、海の幸、山の幸に恵まれた豊かな土地です。

#### (2) 警備と開拓にあたった農民兵士の里

18 世紀中期以降、明治政府は北辺警備の充実のため、蝦夷地(北海道)に屯田兵制を施行して警備と開拓を行わせました。屯田兵は明治 8(1875)年の札幌郡琴似村に始まり、明治 30(1897)年、湧別屯田第 1 陣が移住、明治 32(1899)年までに、道内各地に 37 の兵村が置かれました。上湧別地区には当時の区画の北兵村地区と南兵村地区が残っています。

#### (3) 開基～分村～100 年の時を経て再び一つの町に

明治 2(1869)年の北海道開拓使設置後、本町の地域は、北見国 8 郡のうち紋別郡とされ、明治 5(1872)年「ユウベツ村」が誕生しました。明治 15(1882)年、網走郡役所に勤務していた半沢真吉が近代農業を行うため本町に移住し、湧別川河口付近に鋤を下ろしたことが本町の開基とされています。



写真 1-1 屯田七夕まつり  
「屯田兵行進」

出典：湧別町

明治 30(1897)年に紋別戸長管下から分離し、湧別村戸長役場が旧湧別町に設置、その後明治 39(1906)年の 2 級町村制施行に伴って湧別村役場が設置されました。明治 43(1910)年には、戸数の増大に伴い、上湧別村(旧上湧別町)が湧別村(当時、下湧別村と改称、旧湧別町)から分村され、旧 2 町はそれぞれの歴史をたどります。平成 21(2009)年、分村から 100 年の時を経て再び両町は合併し、一つの町となりました。

#### (4) チューリップが町のシンボルに

北海道としては農地面積の少なかった上湧別地区において、昭和 32(1957)年、高収益作物であるチューリップの栽培が推進され、オランダから球根を輸入、栽培が開始されました。昭和 35(1960)年には生産量(33 万球)・輸出货量共に北海道内一となり、昭和 40(1965)年には 22 万球を輸出するようになりました。しかし、昭和 41(1966)年にオランダの球根が世界市場で値下げされたため日本からの輸出が困難を極め、国内消費拡大に努めるも、当時は花を楽しむような社会情勢ではなく生産農家が年々減少、チューリップ栽培は衰退していきま



写真 1-2 かみゆうべつチューリップ公園  
と園内周遊電動バス

出典：湧別町

た。その後、かつて町を活気づけたチューリップを後世に残そうと、昭和 51(1976)年、町の花(旧上湧別町)に指定されました。現在の「かみゆうべつチューリップ公園」は、有志により小規模から始まったチューリップ畑が拡大し、昭和 63(1988)年には町立公園として指定されました。

見頃を迎える 5 月に開催されるチューリップフェアには、町内外から多くの人々が訪れます。

#### (5) 人と自然が輝くオホーツクのまち

町章は湧別町の「ゆ」をモチーフとし、中央に輝く五光星は北海道開拓精神のシンボル、そして「人と自然が輝くオホーツクのまち」の将来像を表現しています。使用色の青は雄大なオホーツク海を、緑で表現した星は豊かに実る農地の作物を表しています。



図 1-2 町章

出典：湧別町

全国から集まった屯田兵が開拓した本町には、先人からのフロンティアスピリットが脈々と引き継がれています。バイオマスの利活用により「第二の開拓」を目指します。

### 1.3.2 人口

本町の人口は8,543人、世帯数4,019世帯(令和2年4月)であり、1世帯当たりの人口は2.13人です。

昭和60(1985)年から令和2(2020)年の35年間に人口が13,702人から8,543人まで約38%減少しました。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和22(2040)年には人口が6,150人と、令和2年の約7割まで減少すると見込まれています。

表 1-1 人口・世帯数の推移

	昭和60年 (1985年)	平成2年 (1990年)	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
人口 (人)	13,702	12,692	12,042	11,423	10,758	10,041	9,231	8,543
世帯数 (世帯)	4,201	4,039	4,107	4,079	4,125	4,010	3,861	4,019

出典：国勢調査(各年10月)、令和2年は住民基本台帳(令和2年4月)

昭和60年～平成17年は、合併前の旧上湧別町と旧湧別町の合計

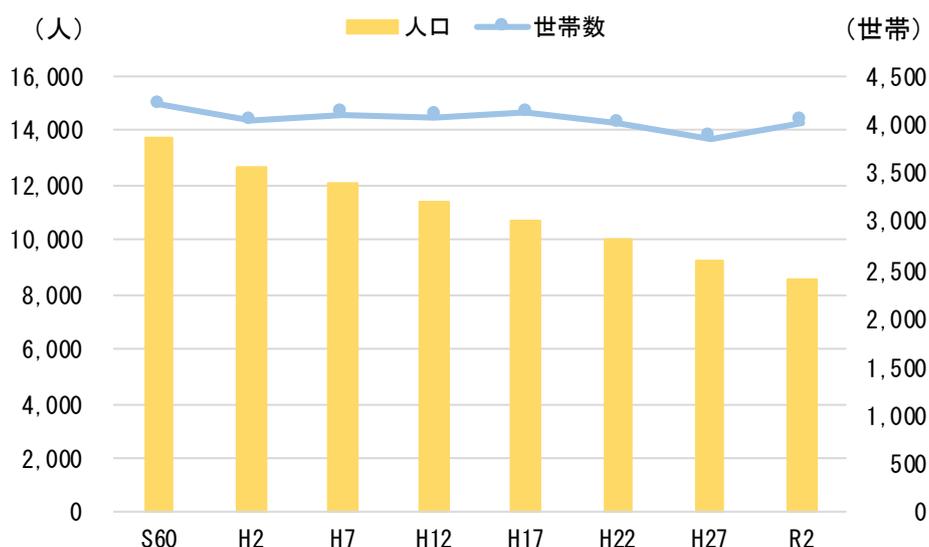


図 1-3 人口・世帯数の推移

出典：国勢調査、昭和60年～平成17年は、合併前の旧上湧別町と旧湧別町の合計

人口減少を抑制するために、地域に賦存するバイオマスを活用した地域経済の活性化と雇用の創出が不可欠です。

## 1.4 地理的特色

### 1.4.1 位置

本町は、北緯44度9分・東経143度34分、北海道の東北部、オホーツク海沿岸の中央部に位置し、北海道で最大の湖・サロマ湖を抱え北見峠に水源を持つ湧別川流域に肥沃な大地が広がる地勢を有しています。

北はオホーツク海に面し、東は北見市、佐呂間町に、南は遠軽町に、西は紋別市に隣接しています。



図1-4 湧別町の位置図

出典：北海道オホーツク総合振興局ホームページ

湧別町は、オホーツク海とサロマ湖に面した、畑作・酪農と水産業の町です。

## 1.4.2 地形

町のほぼ中央に湧別川が流れ、その流域とオホーツク海沿岸に平地が広がっています。湧別川流域の左右は、ゆるやかな丘や 500m 以下の標高の低い山で形成されています。

東部は北海道最大の湖「サロマ湖」に接しており、冬期の「流氷」と「湧別川」の恵みにより、海の幸と山の幸が豊富な地域です。



図 1-5 湧別町の航空写真

出典：Google マップ

湧別川流域とオホーツク海沿岸に平地が広がり、ホタテや牡蠣、さけ等の海の幸と、たまねぎやかぼちゃ等の山の幸が豊富な地域です

## 1.4.3 交通体系

### (1) 道路

本町は、オホーツク海沿岸を走る国道 238 号、湧別川に並行して町の中央を走る国道 242 号の 2 国道を主軸とし、その他の道道、町道が近隣市町村と連絡する道路網を形成しています。

高規格幹線道路は、旭川紋別自動車道の延伸が遠軽 IC まで進んでいます。本町役場への自動車でのアクセスは、旭川市から旭川紋別自動車道経由により約 140km・2 時間、また札幌市から道央自動車道、旭川紋別自動車道経由により約 280km・3 時間 45 分です。

### (2) 鉄道、空路

本町は鉄道の空白地帯にあり、最寄りの JR 駅は遠軽駅です。湧別町からは自動車で 20

分、遠軽駅から札幌駅までの所要時間は3時間30分です。

本町最寄りの空港は紋別空港(紋別市)であり、飛行機によるアクセスは羽田空港～紋別空港間が2時間、紋別空港～湧別町まで自動車で40分を要します。



図 1-6 本町へのアクセス

#### 1.4.4 気候

本町の気候はオホーツク海型気象地帯としての特色があり、降水量は年間 720mm 前後、平均気温は 5.8℃前後です。本町は、西が北見山地と石狩山地、南から東が阿寒山地・知床連山、北東にはオホーツク海と、周りを山と海に囲まれた地形であることから、雨雲が遮られるため降水量が少なく、日照時間が多いことが特徴です。

春から夏にかけては、山越え気流によるフェーン現象により、最高気温は 30℃以上になることも珍しくなく、冬の最低気温はマイナス 20℃以下となることもあります。

表 1-2 湧別町の月別気温、降水量及び日照時間

月	平均気温 (℃)	日最高気温 (℃)	日最低気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (時間)
1月	-7.1	-2.7	-12.4	40.0	112.6
2月	-7.4	-2.8	-13.2	26.7	137.0
3月	-2.7	1.4	-7.6	33.8	178.2
4月	4.2	9.2	-0.5	43.3	178.2
5月	9.5	14.8	4.4	50.6	197.4
6月	13.0	17.7	8.9	59.3	179.5
7月	17.1	21.5	13.4	93.6	166.8
8月	19.4	24.0	15.5	99.0	169.3
9月	15.6	20.8	11.1	111.0	169.3
10月	9.5	15.1	4.5	64.5	153.6
11月	2.7	7.2	-1.6	46.9	113.6
12月	-3.7	0.3	-8.4	43.3	107.3
年	5.8	10.5	1.2	715.5	1,866.8

出典：気象庁(アメダス) 湧別観測所、1981～2010年の平年値

気候はオホーツク海型気象地帯としての特色をもち、冬の寒さは厳しく、例年1月下旬頃から流氷が接岸しますが、比較のおだやかな気候で日照時間に恵まれています。

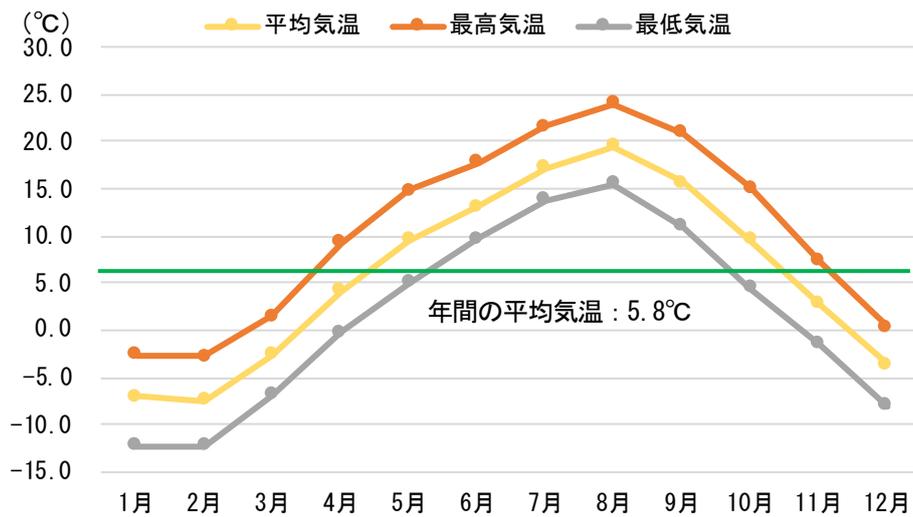


図 1-7 湧別町の平均気温

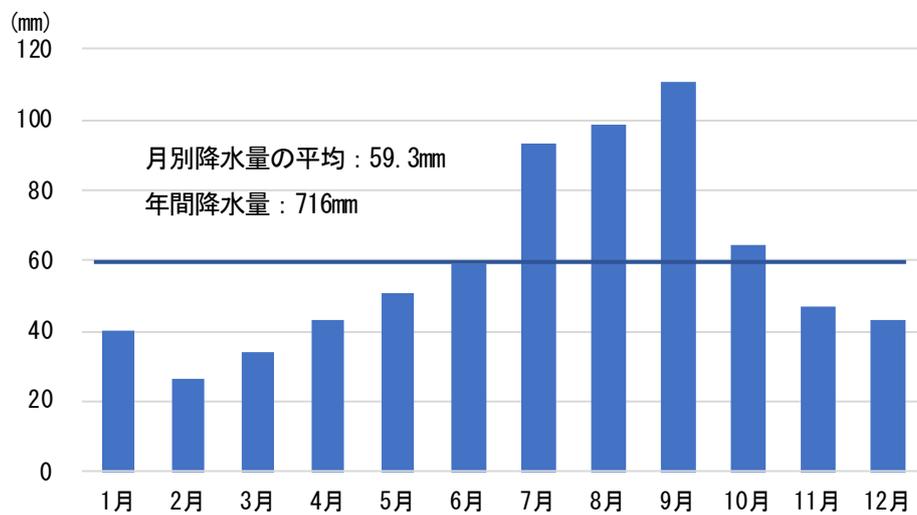


図 1-8 湧別町の降水量

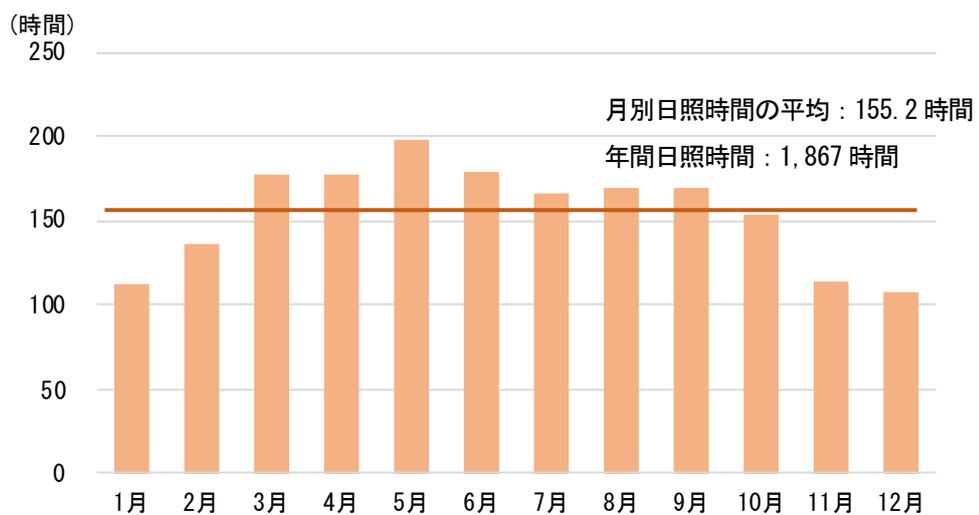


図 1-9 湧別町の日照時間

出典 : 気象庁(アメダス) 湧別観測所、1981~2010年の平年値

### 1.4.5 面積

本町の総面積は505.79km<sup>2</sup>(平成31(2019)年)です。地目別面積による土地利用状況(その他を除く)は、割合の大きい順から山林187.02km<sup>2</sup>(37.0%)、畑105.76km<sup>2</sup>(20.9%)となっています。

表 1-3 地目別面積(平成31年)

	面積 (km <sup>2</sup> )	割合 (%)
畑	105.76	20.9%
宅地	8.77	1.7%
山林	187.02	37.0%
牧場	0.30	0.1%
原野	8.15	1.6%
雑種地	6.21	1.2%
その他*	189.58	37.5%
総面積	505.79	100.0%

\*その他には保安林が含まれている

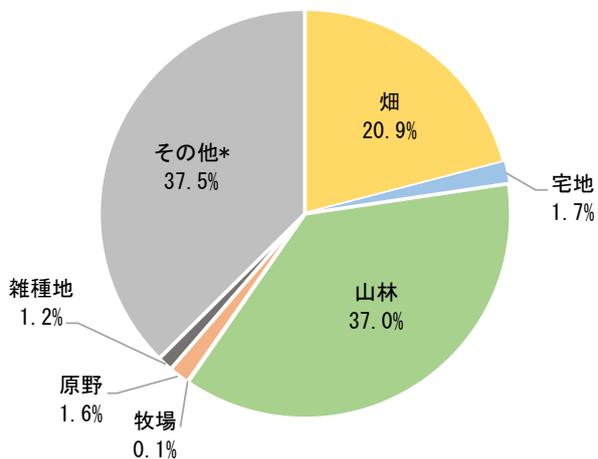


図 1-10 地目別面積(平成31年)

出典：平成31年固定資産概要調書

(平成31年1月1日現在)